市災害時要援護者避難支援計画

この計画は、災害時における要援護者の避難支援に関する事項を具体化したものです。市で作成し、目的や考え方を示した「全体計画」と、要援護者一人一人に対する避難支援者や避難先などを記載した「災害時要援護者避難支援台帳」を含む地域ごとの「個別計画」で構成されます。個別計画は地域のみなさんで作成し、避難訓練などを実施することで、災害時にスムーズな安否確認や避難誘導をすることが可能になります。

個別計画の内容

災害時要援護者は、誰かの支援がなければ避難できない在宅者で、災害時に家族の支援が受けられず、危険から逃れるための一連の行動に支援を要する人です。例えば、75歳以上の一人暮らし高齢者、介護保険における要介護度が一定以上の人、障がい者手帳保持者などが対象となります。そのほか、自らの申し出や地域で認める人たちも含みます。

「避難支援者」は、自治組織（自主防災組織）、福祉関係者、ボランティア、近隣住民などの中から、地域で話し合って選定します。避難支援者はあくまで任意の協力者であり、自身の不在や被災などにより、要援護者への支援が困難となる場合も考えられます。要援護者は、全てを任せるのではなく、自分できることを行うということの理解も必要です。避難支援台帳の登録は、「にこにこネット台帳」と同様に、民生委員など地域の福祉関係者が本人に意向を確認することとしています。

市民支え愛マップ

市は、災害時要援護者の状況を把握するため「市民支え愛マップ」の作成を勧めています。日常の見守り活動や安否確認の方法、災害時における声掛けや避難支援などの整理を行うことで、地域の状況をひと目で把握できるようになります。

これら事業の推進については、市社会福祉協議会が6月から9月まで市内32会場で開催した「地域福祉かたりあいの輪・福祉懇談会」において説明しました。今後は、地域内の理解が進み、実際に着手できる段階まで進んだ地域や団体に対し、市と市社会福祉協議会が再度詳細の説明行いながら、地域での話し合いを深めていくことにしています。

誰もが安心して生活できる地域へ

これまでの地域社会は、困った時には家族や親戚、近隣住民が助け合い支え合ってきました。しかし、現在は過疎化や核家族化、就業形態や価値観の変化など、さまざまな理由でこの機能が弱まっています。

このような時代であっても、「ここで生きてきて本当によかった――」と言える地域を目指し、「人間の持つやさしさと思いやりによる、心と心をつないだ輪」を築くことが、安心して健やかな生活を営む上で不可欠であり、地域福祉の原点でもあります。市民の皆さんの温かいご協力をお願いします。

interview

ご近所福祉スタッフ
江刺区梁川字七下
菊池均 さん（68）

地域内の一人暮らし世帯の巡回を、少なくても月１回は行っています。

地域内の約半数が一人暮らし世帯で、さらに近所づきあいも昔より希薄になっているのが心配です。一人暮らし世帯に対しては、近隣や親戚の人も気に掛けてほしいと思います。あと、福祉関係者と一人暮らし世帯の親戚など、関係する人たちの横の連絡が、今まで以上にとりやすくなればいいですね。

一人暮らし
衣川区古戸
高橋サキ子 さん（74）

体に障がいがあり、回覧板を回すのが大変です。家の中で転倒したときは、自力で立ち上がることができず、大声で人を呼んだこともあります。

今は近隣の人をとても頼りにしていて、これからも援助していただけたらと思っています。そのために、地域に見守りの取り組みが浸透し、体制が早く整うことで、一人暮らしで大変な状況を助けてくれる環境が続いてほしいです。

地域見守り支援ネットワーク

「みまもりおーネット」協力事業所を募集

小沢昌記市長が登録事業所に協力事業者証を交付（８月20日）

市は、高齢者の孤立防止、認知症の人と家族への支援、高齢者などへの虐待防止、消費者被害の防止などを推進するため、民間事業者の協力を求めています。具体的には、一人暮らし世帯などで、ちょっと気になることがあったとき、市や関係機関にいち早く連絡をしていただくというものです。

これにより、社会的弱者といわれる高齢者や子ども、障がい者などを見守ることができます。事業所の皆さんには、配達や訪問業務などの際に、次の参考例のような異変に気づいたときに連絡をお願いしています。

《参考例》
- ○事前に約束した時間に訪問しても、家や周辺にもいないとき
- ○郵便物や新聞がたまっており、声を掛けても反応がないとき
- ○電話などもつながらず、長期にわたって連絡がとれないとき
- ○対応の様子に異変を感じたとき
- ○訪問に限らず、配達ルートで周囲の異変に気づいたとき

現在、26の事業所が登録していますが、今後も募集を継続し、幅広い活動につなげていきます。申し込み方法などは、次のとおりです。多くの事業所に参加していただくことで、より安心して生活できる地域を形成することができます。ぜひご協力ください。

■申し込み方法
協力を希望する事業所は、所定の申込書に必要事項を記入の上、本庁福祉課に申し込んでください

■登録
申し込みのあった事業所を確認し、「みまもりおーネット協力事業所」として登録。「みまもりおーネット協力事業者証」とステッカーなどを交付します。なお、登録事業所は市ホームページで紹介しています

■その他
企業広告などに、みまもりおーネット事業に登録していることを紹介することも可能です

■「みまもりおーネット」登録事業所

区	事業所名
水沢区	ＡＳＡ朝日新聞サービスアンカー水沢
	(株) 河口
	(株) 日報髙橋
	(有) 共配
	小岩井牛乳やまぐち
	佐々木新聞店
	東北電力(株) 水沢営業所
	橋本新聞店
	毎日新聞水沢専売所
	水沢ガス(株)
	森永牛乳原中販売店
	岩手ヤクルト販売(株) 水沢支店
	(有) ワイ・エス・シー
	読売センター水沢
	水沢信用金庫
江刺区	(株) Ｅ・ポート
	朝日新聞サービスアンカー
	岩手江刺農業協同組合
	岩手日報江刺販売センター
	小原新聞店
前沢区	朝日新聞前沢専売所
	岩手日報前沢販売センター
	(有) 読売新聞前沢専売所
胆沢区	(株) 阿部新聞店
	岩手ふるさと農業協同組合
	(株) ＪＡ岩手ふるさと協同サービス

interview

岩手日報江刺・前沢販売センター　マネージャー
佐藤信一 さん（59）

新聞配達では、今までも一人暮らし世帯に注意を配るようにしていましたが、一人暮らし世帯が増えているので、心配な点も多くなっています。「みまもりおーネット」に登録したことで、今後は地域の民生委員などと連携が取りやすくなりました。さまざまな情報を共有することで、いざというときの対応も円滑になると期待しています。

毎日家庭を訪問している私たちが、少しでも皆さんの役に立つことができればと考えています。